神戸陵を渡る風3

令和5年度　川辺高校　校長通信　第118号(通算)　　令和5年9月22日(金)発行

明日は**秋分の日**で国民の祝日の1つで「**祖先をうやまい，なくなった人々をしのぶ**」日として制定されていました。もともと**秋分**とは，二十四節気の一つで，昼と夜の長さがほぼ同じになる日です。また，今年の秋のお彼岸は9月20日から9月26日までを指し，9月23日は中日(ちゅうにち)と呼ばれます。春分の日と秋分の日はどちらも，お彼岸の中日になるようになっています。お彼岸入りには，家族や親戚が集まり，一緒に仏壇やお墓の掃除やお参りをすることもあります。また，お仏壇やお墓に供えるものとして，花や果物，おはぎ，落雁があります。実は，ぼたもちとおはぎは同じもので，それぞれの季節に咲く花に由来して，春は**ぼたもち**(牡丹)，秋は**おはぎ**(萩)と呼ばれています。

校　長　散　策
桜　島

8月に桜島・黒神の埋没鳥居に行きました。

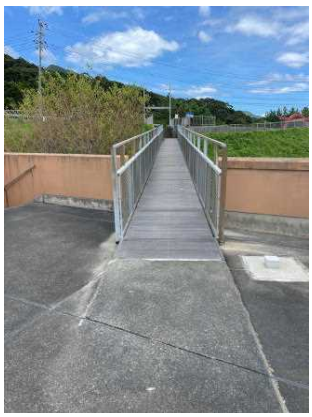
大正噴火(1914年)のときには，軽石や火山灰がたった一日で2mもつもり，黒神集落のほとんどは腹五社神社の鳥居(3m)の上部だけを残して埋もれてしまったそうです。住民は大切な鳥居をすぐに掘り起こそうとしましたが，この未曾有の大災害を後生にきちんと語り継ぐためにはそのままで保存しようと考え今に至ります。そして，埋没鳥居の奥には，その後再建された腹五社(はらごしゃ)神社があります。実は，桜島と対岸の吉野(寺山)にも原五社(はらごしゃ)神社があります。この神社がある集落は，江戸時代の安永8年(1779年)に起こった桜島の大噴火から避難してきた人々が桜島が見える場所に移住して桜島と同じ呼び名神社を建立したのでした。郷土への強い思いを感じました。

今も活発に噴煙を上げている桜島は遠目に見ると壮大で美しくしいです。しかし，東側にぽっかりと空いた昭和火口の噴気を見ているととても怖くなります。島内やその周辺には写真にあるような避難壕があちこちに造られていました。また，桜島の川は普段は水が流れていませんが，雨が降ると雨水と火山灰，石が土石流となって，大きな岩をものすごい勢いで下流へ押し流していきます。大正の大噴火では，船で一周できる孤島であった桜島が，溶岩流によって大隅と陸続きとなり半島になりました。それから100年の時が過ぎ，またいつ大噴火が起こるか分かりません。先人達が残した噴火の記録を元に安全対策を行ういましょう。

桜島の避難壕

笠　沙　美　術　館

南さつま市笠沙町赤生木に，とっても眺めのいい小さな美術館があります。黒瀬展望ミュージアムという別称があり，館から望む東シナ海や複雑な海岸の美しい眺望もひとつの芸術作品となっています。この日は南西諸島，三島村の黒島や硫黄島も見えていました。今度は夕暮れ時に夕陽を眺めに訪問してみたいです。



黒島

川辺の大きな石蔵

学校の近くに大きな石蔵があることを知っていますか？　昔，川辺にも鉄道が通っていたことは以前お話ししました。南薩鉄道という鹿児島唯一の私鉄があり，伊集院から加世田を経由して枕崎までの南薩線と阿多から知覧までの知覧線，加世田から万世までの万世線を有していました。旧川辺町内には5つもの駅がありました。学校に一番近い駅は，薩摩川辺駅で，そこに隣接して建っていたのがこの石蔵です。物流(お米)の集積地だったのでは？　当時の歴史を物語る(残す)貴重な石蔵です。

国　体　の　結　団　式

令和5年8月29日(火)

特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」の鹿児島県選手団結団式が実施されました。本校からは，なぎなたの強化選手の3名と鹿屋体育大学に進学したOGが参加しました。

選手代表挨拶を本校卒業生鹿屋体育大4年の秋葉笑里選手が行いました。大変誇らしいことで，活躍を期待しています。